

8・3 定

陳情第 6 1 号

受 付 年 月 日	8 . 7 . 3 0	付 託 委 員 会	総 務
提 出 者	●●●●●●●●●●●●●●●●●● ●● ●●		
紹 介 議 員	—		
提 出 者 か ら の 説 明 希 望 の 有 無			☒ 有 ・ 無
件 名 と 要 旨			
(件 名)			
旭川市史の現代語訳版作成及びデジタルアーカイブ「旭川のあゆみ」への併載を求めることについて			
(要 旨)			
旭川市が公開を進めるデジタルアーカイブ「旭川のあゆみ」において収録されている市史などの歴史資料について、旧漢字・文語体で書かれた原文に加え、現代語訳版を公式に作成・併載することを求める。これにより、誰もが旭川の歴史にアクセスし、多角的・フラットな視点で過去と向き合うことを可能にし、市民の歴史的リテラシー向上と、A I時代における誤解や偏った解釈の拡散防止に寄与することを目的とする。			
1 デジタル化の次のステップとしての現代語訳の必要性			
令和7年（2025年）3月、旭川市はデジタルアーカイブ「旭川のあゆみ」の公開を開始した。これは、歴史資料をデジタルデータ化し、誰もがいつでもどこでも歴史に親しめるようにする画期的な事業である。しかし現状では、収録された市史の本文は旧漢字や文語体のままであり、多くの市民にとっては「見られるけど読めない資料」ととどまっている。			
歴史資料を保存から活用の段階へと進めるためには、原文に加えて公式の現代語訳を提供することが不可欠である。現代語訳があって初めて、市民は自らの手で一次資料に当たり、その内容を正確に理解することができる。			
2 フラットな歴史認識のための基礎資料として			
旭川市史には、アイヌ民族に関する記述など、時代や編さん者の価値観を色濃く反映した内容が含まれている。これらの資料を理解するためには、原文が持つ当時の空気をそのまま伝えつつ、現代の視点から補足する注釈を加えることが重要である。			
現代語訳版は、単なる読みやすくしたものではなく、原文と併記し、必要に応じて歴史的背景や用語に注釈を付すことで、市民がその時代の価値観と現代の視点の両方を持って歴史と向き合うことを可能にする。これは、旭川の歴史、特にアイヌ問題のようなデリケートなテーマについて、感情や偏りに流されないフラットな理解を促すための基盤となる。			

(次頁に続く)

3 AI時代のリテラシーと公式見解の必要性

生成AIの普及により、誰もが歴史資料をAIで翻訳し、その結果をさも事実のように拡散することが可能になった。しかし、AIの翻訳は飽くまで推測であり、旧漢字や文語体の解釈には誤りが含まれる可能性が常にある。

このような時代だからこそ、自治体が責任を持って作成した公式の現代語訳を提供することは、誤解や偏った解釈の拡散を防ぐ安全網として極めて重要な役割を果たす。市が公式見解を示すことで、市民はAIの出力と照らし合わせながら、より正確な歴史認識を得ることができる。

4 全国的な先進事例と実現可能性

歴史資料の現代語訳は、既に全国各地で取り組まれている。例えば、国立国会図書館デジタルコレクションでは、一部の古文書に現代語訳や解説文が併載されている事例がある。旭川市も、こうした先進事例を参考に、段階的かつ計画的な現代語訳の整備を進めることができる。

また、旭川市史デジタルアーカイブ検討会が設置され、学識経験者や関係団体と連携した議論が進められている。この既存の体制を活用することで、現代語訳の作成は現実的かつ効率的に実現可能である。

以上の趣旨から、次の事項について陳情する。

陳情事項

- 1 旭川市史を始めとする主要な歴史資料について、公式の現代語訳版を作成し、デジタルアーカイブ「旭川のあゆみ」に併載すること。
- 2 現代語訳は原文と併記し、旧漢字・文語体の表現をそのまま残すとともに、歴史的背景や用語に関する注釈を付すこと。
- 3 現代語訳の作成に当たっては、歴史学者・アイヌ民族関係者・市民等の多様な視点を反映させるため、有識者会議やパブリックコメント等の手法を活用すること。
- 4 整備に当たっては、国立国会図書館デジタルコレクションや他自治体の先進事例を参考にし、段階的かつ計画的な実施を図ること。